

# 藤棚

## 48号

世田谷区深沢 4-10-1  
東京学芸大附属世田谷小学校内  
**青山附属同窓会**  
<http://aoyama-dosokai.jp>  
青山附属同窓会 検索  
発行人 森 昭彦  
編集人 齊藤研一

### 附小一四〇周年と

### 同窓会のこれから

幹事長 森 昭彦

本年三月一〇日に附属小学校は創立一四〇周年を迎え、三月九日には創立一四〇周年を祝う会が行われました。

その会で子どもたちは是非一流の音楽家による演奏を聴かせたいと、学校から同窓会に相談がありました。そこで、附属小学校を一九五〇年に卒業され、広く海外で活躍されているバイオリニストの鈴木秀太郎氏に同窓会を通じてお願いをし、快く引き受けていただきました。当日は奥様のセイダさんと共に、バイオリンとピアノのすばらしい演奏が行われました。同窓会が学校のお役に立てたことは、

大変喜ばしいことです。

さて、ご承知のように、三月二十六日に同窓会主催による一四〇周年記念祭が児童館にて行われました。昭和十七年卒業の大先輩をはじめとして、二三四名の同窓生と十六人のOBの先生方、そして現職では松浦校長、藤田副校長を始め約一〇名の先生方も参加され、老若混じり合い大いに盛り上がった会でした。

会場の児童館では一週間前に卒業の会が行われましたが、その際の児童の作った見事な飾り付けをそのまま残し、大変華やかな雰囲気の中で記念祭を行う

ことが出来ました。

昭和三十七年(一九六二年)の青山附属同窓会再建以来しばらくの間行われていた、同窓会主催のこのようなイベントは、一九七四年を最後に途絶えていました。この度記念祭を開催してみて、参加者の声、同窓生や恩師から寄せられた数々のメッセージに接して、このような会合を皆さんが待ち望んでいたこと、また、附属小学校が如何に多くの方の心の故郷になっているのか、あらためて気付かされました。

ここ三〇年ほど、同窓会は同窓生名簿を如何に正確に維持・管理しつづけるかを最も大切な責務として活動してきました。そのため、同窓生が附属の同窓生であるという一体感を醸すようなイベントなどには力を注ぐ

ことなしに来てしまいました。

今回の企画は中学生(現在は高校生)の常任幹事のアイディアを中心立てられました。このように若い実行力のある方が常任幹事会に加わりましたので、今後は同窓会としてこのような方向を一つの柱にしていきたいと思います。

次の大きな目標を一五〇周年に合わせ、当面、三年ごとに開催している懇親会を充実し、その間にどのようにしたら同窓会の存在を皆さんに認識してもらえるか、特に、同窓生の意見を反映する役目のクラス幹事(幹事会のメンバーになります)の組織化、活性化を考えていきたいと思えます。クラス幹事の皆様も、幹事会に積極的に出席され、活発にご意見を出していただきたいと思えます。

現在の同窓会の生存会員は、六月二四日現在で九九七八名そのうち七二三四名の方の住所が把握できています。しかし、この会報などをお送りすると、毎回百数十通ほどが戻ってきてしまいます。転居などでご住所が変わられたなら、必ずご連絡

下さい。

来年秋に同窓会名簿の発行を予定しております。そのための調査票を同封いたしました。是非、御記入の上、返送して下さい。

また、二〇一七年～二〇二二年までの五年間分の同窓会費(五千円)をお納め下さい(二〇〇八年以降の卒業生及び一九四九年以前の卒業生は会費免除となります)。同窓会名簿は同窓会費をお納めいただいた方に配付しております。同窓会費は、同窓会活動の唯一の財源です。是非、皆様のご協力をお願いいたします。



# 附属小学校の近況

副校長 栗原正治

2016

同窓会の皆様、いつも附属小学校を温かく見まもりご支援をいただいております。ありがとうございます。

同窓会の皆様、いつも附属小

▽鈴木千夏先生

本校栄養教諭として六年間の在職でした。先生にならなかつたらラジオパーソナリティになりたかった千夏先生。活発な発信型の先生で、ラジオではなくペーパーで、給食へのこだわりを「もぐもぐ通信」にして毎日発行されていました。給食を食べ

【先生の異動】

☆お送りした先生

▽居城勝彦先生

平成十年に本校に赴任され、途中平成十九年度の人事交流で竹早中学校に三年間異動された後、また本校に戻られての在職でした。「先生にならなかつたら何になっていたのでしょうか」というアンケートに「先生以外

▽幸阪創平先生

東京都との人事交流で五年間の在職でした。先生にならなかつたら漫画家になりたかつた創平先生。自筆漫画入りの教材づくりへのこだわりや、授業での子どもたちの話し合いの道筋をイラストもまじえながらわかりやすく板書にまとめる手腕などに、その才能は遺憾なく発揮されて

いました。人は考えるから人であるという道徳観を、漫画などの柔らかな手だても用いながら伝えて、この国の子どもたちの心の育ちをこれからも支えてくださるでしょう。

▽青木良太先生

東京都との人事交流で三年間の在職でした。教員にならなかつたら工場で機械いじりをしていたいと思う良太先生。先生が授業をされている理科室にも、子どもたちが実験をたのしみつつ真理を求めることができる「新発明の工夫」がいつもあふれていました。たのしくてしかも深い理科の授業。これからも科学する心が育つ授業開発に活躍されることでしょう。

▽金子大介先生

東京都との人事交流で三年間の在職でした。教員にならなかつたら画家かギター職人になりたかつた大介先生。物事への丁寧で徹底した準備の心構えや構想を実現するに至る根気強さは、

仕事は準備の段階で決まる…教育の世界も例外ではありません。

【青山会子どもクラブの近況】

「親子で学ぶ六年間」をクラブポリシーにしている本校の「子どもクラブ」の運営形態は、かなり個性的です。

子どもたちの指導にかかわるのは現役の保護者のみなさんで、外部コーチなどのサポートに頼らない活動を運営の基本スタンスにしています。遊びや文化・スポーツ等の活動を通して、子どもたちの興味関心に基づく自発的な活動が効果的に展開され、豊かな自己実現が図れるように保護者が積極的・適切にかかわってクラブ活動を応援して下さい。

今後はより児童主体の活動になっていくようにクラブ活動を育てていきたいと、保護者の皆様とビジョンを共有しているところです。

【今年の運動会の様子】

実行委員会のスローガンは「百四十周年の次の年、+1、新しい運動会にしよう」と取り組

みました。

五月二十一日は天候にも恵まれまして、今年も子どもたちが躍動し感動する日になりました。また長い時間、伴憲三郎先生や次山信男先生が応援席から子どもたちの真剣な姿を見守ってくださったのもありがたかったです。実行委員会企画の開会式には聖火台への点火という演出もありました。今年はオリンピックキヤードもあり、その点からも運動会が盛り上がりました。





# 懇親会2015開催報告

実行委員長 鈴木淳生(昭和四十三年卒)

恒例の「青山附属同窓会懇親会」は、母校の一四〇周年

行事に合わせて平成二十七年十月三十一日(土)午後一時から、原宿にある東郷記念館一階の「クラブ水交」で開催されました。当日はあいにくの曇りでしたが、夕方近くには薄日もさすほどで、暑からず寒からずのまずまずの天候でした。

参加者は、下馬校舎時代の同窓生はもちろん、深沢校舎時代の卒業生や恩師を含めて約三〇名。久しぶりの再会を喜ぶ姿が随所に見られました。ひとしきり歓談が続いたあと、「青山附属創立九〇周年と一〇〇周年記念行事」が撮影されているDVDを皆で鑑賞。これは伴憲三郎先生がおとめになられたもので、我々は、伴先生の解説のもとで鑑賞できる恩恵にあずかることとなりました。

前半の昭和天皇皇后両陛下をお迎えした九〇周年記念式典の場面では、児童館での昭和天皇の「おことば」が肉声のまま全て拝聴できたことに、一堂驚きの声が上がりました。後半の今上天皇陛下が皇太子時代に美智子妃殿下とともに

行われた記念式典の様子が映写された、とありますので、私達は一四〇周年記念懇親会において九〇周年記念の懇親会と同じ映像に接したことになります。誠に感慨深いものがあります。

子時代になった一〇〇周年記念式典の場面では、当時の小学六年生に囲まれている姿を目の当たりにして、皇室と青山附属との親近感を感じてしまいました。同時に他に比類なき青山附属の歴史的な重さをあらためて心に刻むことができました。

そもそも本「懇親会」は、奇しくも一九六六年附属小学校創立九〇周年を記念して開催された九〇周年記念同窓会懇親パーティーに端を発して始まったものです。会報「藤棚」第7号によりますと、その席で上記の陛下をお迎えし



## 名簿発行(2017年)のお知らせ

早いもので、前回の名簿発行から来年(二〇一七年)で五年になります。

この間、約六百名の卒業生を迎え、多くの同窓生が住所や勤務先などを変われています。

同窓会では来年の名簿発行に向けて、今年の会報に調査票を同封し、掲載の内容や可否の確認をさせていただきます。

変更点があれば赤字で修正し、変更がなくても「変更なし」の欄に印を付けていただき、同封の返信用封筒にてご返送ください。

名簿の配布先は卒業生・現任教職員と小学校などの関係者に限られておりますが、掲載を希望されない項目は不掲載にすることができま。また、同窓会では個人情報第三者への漏えいなどの事故がないよう厳重な注意のもと取り扱っています。

近年、名簿の発行を中止する同窓会も増えてきました。本同窓会では、ご健在の約一万人の卒業生のうち七千人を超える方

の住所が判明しており、その多くの方が連絡先を名簿に掲載されています。同窓会名簿はクラス会の開催など、卒業生の皆様が連絡を取るための手段として利用いただいており、今後もそのお役に立てる限り、より利用しやすく改善を続けながら発行を続けていく予定です。

今年三月には、附属小学校一四〇周年記念祭に三百人近い恩師および卒業生の皆様が来場され、大盛況でした。また、旧下馬校舎の取り壊しと青山荘の閉鎖について、多くの卒業生の皆様がい出の場所との別れを惜しまれていました。

同窓会の活動は、いずれも皆様のご協力で名簿が維持されているからこそ、できることです。名簿の発行に、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、今回の調査票の記載についての詳細は、別紙または調査票の裏面をご参照ください。

(野口)

# 一四〇周年記念祭開催報告

日野真毅(平成二十五年卒)

今回、初めて投稿させて頂く平成二十五年卒業生の日野真毅と申します。一昨年から、青山附属同窓会の常任幹事として、活動のお手伝いをさせて頂いたことになりました。よろしく願います。

今回の一四〇周年記念祭では、イベントの企画・立案などを行いました。

早速ですが、三月二十六日に開催致しました一四〇周年記念祭について、ご報告致します。

同窓会で三年ごとに開いていた懇親会については、前ペー

同窓会では、およそ一年前



から度重なる会議と準備を行った結果、当日の総参加者は二五〇名を超え、最高齢一九四二年卒から昨年卒業した方まで、さまざまな年代の同窓生が参加致しました。

記念祭は、主に恩師による

記念授業や校舎内見学ツアーと、小学校の児童館をお借りして行った懇親会の二つのパートに分かれて行いました。

校舎内見学ツアーでは、校

舎内を見学した後に普段は入れない校舎屋上に入れたというところもあって、計三回行ったツアーは大盛況でした。

懇親会では、食事を交えながら抽選会や校歌・藤棚の歌・ゴールをめざしてなどの合唱、記念撮影など行い、楽しいひと時を過ごしました。

今回の記念祭を企画して改めて思ったことは、「同窓会に年齢という壁はない」ということです。確かに私も企画を練る前は、同窓会のつながりはおじいちゃん、おばあちゃんになってからだという風に考えていました。

しかし、今回の記念祭を見ると、附属世田谷小学校卒業というひとつの共通点だけでなく関わらず、世代の幅に関係なく楽しくお話しされている姿をたくさん見ました。

今回の記念祭には反省すべき点もたくさんありました。特に思う事は、人手不足だっ

たということです。

事前準備から当日の運営まで常任幹事とその友人たちで行いましたが、文字通り「猫の手も借りたい」と思うくらいに忙しかったです。

このような反省点を活かし、十年後の一五〇周年記念祭では、さらに素晴らしい会を作り上げていきたいと思っています。

今回の一四〇周年記念祭に都合等で出席することができなかった方、行きたかった方、れど乗り気にならなかった方、十年後の一五〇周年記念祭には是非参加して下さい。みなさんに会えるのを楽しみにしております。

最後に、この記念祭を行うにあたり、事前準備、当日の手伝い等、協力して下さいました方々、また同窓会の無理なお願いを快く承諾して下さいました藤田先生、本当にありがとうございました。

記念祭当日の写真は、同窓会のホームページから「140周年記念写真ダウンロード特設ページ」へアクセスしていただき、パスワードを入力すると閲覧することができます。是非、ご覧ください。

同窓会 HP の URL <http://aoyama-dosokai.jp/>  
パスワードは記念祭の式次第に記載されています。





# 記念祭に出席して

同窓会会長 庭山正一郎(昭和三十三年卒)

平成二十八年三月二十六日に、母校一四〇周年記念祭が開かれました。森幹事長以下、本企画に奔走された関係者のかたがた、ご協力いただいた卒業生の方々に心から御礼申し上げます。

一口に一四〇周年といいますが、明治初期に創立された小学校でまだ存続している学校が日本にどのくらい残っているのでしょうか? この一四〇年間に亘って、終始意欲的先進的な教育を実践し続けている中で過ごした自らの小学校時代を誇らしく思います。

さて、当日は私も開始時刻に児童館の受付に行き、手荷物を預けましたが、荷物クロークが児童館の一角を上手に仕切って管理されているのになぜ感心しました。その後、模擬事業を見学しました。

一〇時三〇分から内田雄三

先生、十一時からは小林宏己先生の授業を途中まで聴いて、幸阪創平先生と井上陽童先生の音楽演奏へ回りました。

どの授業も参加者は、比較的最近に卒業したかたが多いのは当然としても、私の年代のかたもおられ、二〇歳代から三〇歳にかかった年代の方々が一番多かった様子です。せっかくの機会なので、受講者のかたにその場で名前を書いてもらっていたら、先生を中心にした名簿が作成できるのと思いました。

ちょっと残念なのは、十一時に二コマの授業が重なったこともあり、せっかくの幸阪先生の演奏受講者が少なかつたことです。私の知らない曲ばかりでしたが、六〇年前の音楽で高田先生の歌声を思いだして、雰囲気になりました。

児童館での懇親会は、卒業



幸阪先生の記念授業(井上先生も特別参加!)

の会で使用した舞台意匠をそのまま残して利用させてもらい、つつがなく進行了ました。乳児連れ、子連れのかたも沢山おられ、担任の先生を囲んだ輪がいくつもでき、楽しいひと時でした。

次回の記念祭はいつのこと

になるでしょうか。今回の成功を踏まえ、次に繋げた企画を卒業生の皆さんに企画していただきたいと思いました。



東京学芸大学附属世田谷小学校  
創立 140 周年記念祭

2016年3月26日 東京学芸大学附属世田谷小学校 児童館

# メッセージ



記念祭に出席された同窓生、残念ながら出席できなかった同窓生、そしてお世話になった先生方。多くの方々から、たくさんのメッセージを寄せていただきました。すべてをご紹介したいところなのですが、ここでは、その中から、ほんのごく一部だけを掲載させていただきます。

私は昭和9年1月生まれ、82才です。青山附属小の思い出は、母に連れられて、目黒区鷹番町の家から徒歩で世田谷校舎に行き、くじ引きで当たりが出て、入学できたこと。昭17年の4月に遠足で九品仏のお寺に行ったら、米軍機の東京初空襲で、現地解散で帰宅したこと。学童疎開で松本の浅間温泉で一冬過ごし、翌年の夏には伊那の山中の村の施設に移り、終戦を迎えました。

(中島 倫 1946-2)

戦後70年も終わりましたが、集団疎開の最下級として行かされた思い出が忘れられません。父、私、そして息子の3代がお世話になりました。青山師範、第一師範、学芸大学の卒業3代です。

(牧 壮 1949-2)

私が卒業してから60周年です。私が入学した年に校名が変わり、東横線の下駅名も第一師範から学芸大学に変わりました。何年前かに、思い出の校舎が取り壊されると聞き、最後の見学会に足を運びました。懐かしい階段の手すりや、そのままの形で残っていました。60年前の過去が一気に戻り、小学生の時の自分を見ている様でした。

(大谷彰彦 1955-2)

附小を卒業して半世紀以上経ちました。当時を懐かしく思い出します。藤棚の前で、團伊玖磨氏の作曲になる新校歌を歌った日のことはよく憶えています。

(井上 学 1961-3)

私達は、附小が世田谷に移転して初めての新生入生でした。右足の膝小僧を見る度に思い出すが、校庭に敷き均されていたコークス(石炭ガラ)の事です。この校庭で転ぶと、コークスが原因で非常に痛く、傷も深くなったものです。60年近く経った今でも、私の膝小僧には、その時の傷跡がはっきり残っています。

(速水 努 1963-1)

僕達のクラスは高島久光先生の受け持ちで、卒業の時に先生が君達のクラスは「幼心会」と命名された。以来80年、「幼心会」を通して、今では毎月第4月曜日の午後1時に集まる。今は4名になってしまったが、当日が楽しみで生きています。

(榎本貞司 1938-1)

卒後73年の歳月が流れました。此の間、恩師原田泰三先生を沖縄に尋ね、友と先生の勲5等受賞をお祝いしました。千倉の青山荘も訪れ、往時の思い出に浸りました。

(本田浩男 1943-2)

私は今年86才になります。私たちのクラスは卒業のとき、青志会という同窓会を作り、特に戦争が終わってからは担任だった原田泰三先生を中心に定期的に会合を開きました。以来、すでに70余年を経過しましたが、青志会は今でも続いており、もはや出席者は十指に満たないものの、毎年1回、昼食会を開いています。附属小学校は、私達の心の故郷です。

(小林俊二 1943-2)

「楽しきは青山」を習い覚えて80年。これこそは日本一の校歌と信じ、私は今も折々口ずさんでいます。これから歌い継がれますよう。

(関 元 1944-2)





# 附属小学校 140 周年によせての

「120 周年目の子どもたち」といわれて育った私たちも 32 歳。卒業してから 20 年が経ちました。大学を卒業し、就職し、結婚し…それぞれ色々な生活をしているけれど、やっぱり安心できる友は、附小の仲間です。あの時、自分たちがしたい事、話し合いたい事をとことん追求したことがあるからこそ、今の私たちがあると思います。自主性を尊重してくれた、見守ってくれた先生方に本当に感謝しています。

(岩澤(鈴木)真麻 1996-1)

在校していた時、創立 120 周年のイベントで、校庭に全生徒が集まり、航空写真を撮影した記憶があります。今回は 140 周年。時間の経過に驚かされるとともに、いつまでも子供たちの笑顔を守り続けている世田谷小学校に、感謝と尊敬の念を抱きます。

(河 皓平 1999-3)

附小にとって、このおめでたい 2016 年の記念祭翌日の 3 月 27 日に挙式を予定しています。主人は、実は 7 学年上の附小の卒業生です。附小で出会った仲間とは、いまだにとっても仲良くしています。たくさんの良縁を導いてくれた附小。これからも末永く、生徒の輪が広がっていきますように。

(鈴木なな乃 2001-1)

附小は、社会人になってもずっと自慢の母校です。200 歳、300 歳、もっともっと愛され続けてほしいな。

(丹治由季 2006-1)

卒業して 1 年、あらためて附小の良さを強く感じています。給食も美味しかったな。

(鈴木潤大 2015-1)

140 年の中のたった 6 年間ですが、附小に通うことができて幸せでした。これからも何年も何年もつづいてほしいです。

(神津愛美 2015-3)



小学校 1 年生の時に、90 周年の式典に参加いたしました。昭和天皇・皇后様をおむかえしたすばらしい式典から、ちょうど 50 年の節目の年に、140 周年の記念祭に参加できることを楽しみにしています。

(鈴木規子 1971-3)

思えば 5 年生の時、100 周年をむかえて、朝早く起きて、国旗、校旗などを掲揚しに行ったことなどを、懐かしく思い出したりしています。

(斎藤葉子 1977-2)

『ゴールめざして』は、附小の思い出が詰まった歌です。肩にくいこむザックに耐えて…毎年行われた「がんばり遠足」。ヤビツ峠、弘法山、大山、丹沢、そしてメインイベントの燕岳登山は、台風で交通網が寸断され中止になってしまった不運な学年でした。涙でにじんではやけて見えた雲…千倉での遠泳。泳ぎ切った後は足がふらふら。八野校長先生から口に入れていただいた氷砂糖の味は忘れられません。

(村山佳江 1983-2)

附小の遠足や千倉の遠泳は、運動の苦手な私にはつらく、「できることなら行きたくない」というほどのものでしたが、成人した今になって思えば、とても貴重な経験で、行ってよかったと思っています。千倉の臨海学校という伝統が終わろうとしているのは、とても残念でなりません。

(野口尚志 1988-2)

# 先生方からの色紙

一四〇周年記念祭に際しては、元校長先生をはじめ、諸先生方から色紙を寄せていただきました。文章のほか、イラストや写真など、本当にありがたうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

また、嬉しいことに、青山荘の管理人をしてくださったいた奥田さん夫妻からも色紙が届きました。3枚のうち2枚を掲載させていただきます。ありがとうございます。

現在、同窓会HPの記念祭特設ページ上において、すべての色紙を公開しています。どうぞご覧になってみてください。以下、色紙を寄せてくださった先生方のお名前です。

伴憲三郎、武田道子、成田國英、伊東富士雄、廣井力、村田正之、大井田義彰、羽仁克嘉、河野義章、北野日出男、大熊（伊藤）恵子、大熊徹、内田雄三、亀岬嘉子、岡田和雄、菅原節生、岡田（佐々木）薫

（敬称略、HP掲載順）

## 附属世田谷小学校 140 周年によせて

→  
くじらの家



2009年から青山荘の管理人をしております  
奥田です。  
皆さんとの出会いは 宝ものです。

ありがとう  
青山荘



↑ 千倉の海

お名前： 青山荘管理人 奥田 先生 140周年記念祭の会場や校内に掲示するほか、同窓会の会報やwebページなどで紹介することがあります。特に教え子の方のお名前などにはご配慮の上お書きください。（青山附属同窓会）

## 附属世田谷小学校 140 周年によせて



創立140周年 おめでとごさいます。

出席出来なくて申しわけありません。

青山荘がなくなるのはさみしいですが  
いろいろな事情があると思います。

記念式要が盛会でお持ち帰り。お祈りいたします。  
奥田 義彦



管理人の仕事はとても楽しかったです。  
またいつか皆さんにお会いできる時  
楽しみにしています  
奥田 明美



青山荘管理人室にて

お名前： 青山荘管理人 奥田 先生 140周年記念祭の会場や校内に掲示するほか、同窓会の会報やwebページなどで紹介することがあります。特に教え子の方のお名前などにはご配慮の上お書きください。（青山附属同窓会）



## クラス会を開催しました

### 卒業七十五周年記念 「藤棚一五会」のこと

一九四〇年(昭和十五年) 卒 二組 山田早苗

昭和十五年(紀元二六〇〇年)に青山師範附属小学校を卒業した私どもは、卒業後、男女合同の「藤棚一五会」を結成して、毎年十月にクラス会を開いてまいりましたが、絶好の快晴に恵まれた去る十月十五日に白金の八芳園において、卒業七十五周年記念として最後の「藤棚一五会」を開催しましたので、ご報告いたします。

女子組八名の合計十六名で、以前のようなジュツフェ形式で立ったり座ったりせずに、着席方式でお弁当中心のサーブでしたので、皆落ち着いて会話を楽しむことができました。

最後の会とあって、デザートのコースに入ってから、全員が一人ずつ思い出を語ることにしましたが、在学当時、校医だった託摩先生の孫の二組の託摩武俊君から健康診断などの詳しい話がありましたので、皆が懐かしい当時を思い出しました。

最後には、この日のために山田早苗が作詞・作曲した「卒業七十五周年賛歌」が披露され、全員で校歌「樂しきは青山」と吉田照十方先生作曲の「青山荘の歌」を歌ってから、記念写真を撮って別れを惜しみながら散会しました。

全員が数え年で米寿を迎えている会員は、すでに半数以上を霊界に送り出しており、出席者は一組四名、二組四名



卒業七十五周年賛歌

(作詞・作曲 山田早苗)

一、我等学びぬ 青山師範の  
附属小学校で 幼き日を  
幾多の友は 今は亡くとも  
我等の胸に よみがえる  
二、神に恵まれ 生命永らえ  
卒業してから 七十五年  
ここに集いて 納めを祝う  
今日の佳き日よ 永遠にあれ

(二〇一五年十月作)

### ゴールめざして@懐かしの児童館

一九七五年(昭和五十年) 卒 一組 一力健一郎

入学式、音楽会、学芸会、卒業式…。附小の思い出がたくさん詰まった懐かしの児童館。一四〇周年の式典・懇親会が行われた児童館に、われわれ七十五年卒は十六名が集まり、担任いただいた一組・楠本先生、二組・岡田先生、三組・菅原先生にもお会いすることができました。

附小と言えば、児童館で歌った「ゴールめざして」に全てが凝縮していました。最近の附小はいろいろなことがすっかり変わってしまい、少し残念な気持ちですが、十年後には、もっとたくさんの仲間を集め、児童館で一五〇周年をお祝いする「ゴールめざして」を大合唱し、その後、大クラス会を開催したいものです。

四十一年間訪れていなかった児童館は、リニューアルされたものの、当時とほとんど変わらず懐かしさいっぱい。校歌、藤棚の歌等に加え、青山荘での遠泳や、燕岳登山を経験した世代の心の応援歌「ゴールめざして」を久し振りに歌い、皆、胸を熱くしていました。



## 久しぶりのクラス会

一九六八年(昭和四十三年) 卒 三組 高橋良晴

附属世田谷小学校が創立

一四〇周年を迎え、三月二十六日に記念祭が開催されましたが、この機会に合わせて、昭和四十三年三組卒業生もクラス会を開催いたしました。

クラス会のきっかけは、遡ること一年前の某幹事の職場における出会いがきっかけで、還暦を迎えることから、一つの区切りとしてクラス会でもやろうか、ということになりました。

しかしながら、前回いつ開催されたのかが分からないほど久しぶりということで、何人連絡が取れるのか、何人集まるのか、不安だらけでした。そこで、幹事打ち合わせを兼ねて、まずプレ忘年会を開催しましたところ、何とかなりそうという感触を得ることができました。

こうした努力の結果、当日は、一年から三年まで担任をしていただいた岡田和雄先生を



お迎えして、先生以下二十三名が出席するという、盛会となりました。

会は、岡田先生の出席点呼と回想から始まりました。なしの卒業以来の再会という方も多く、各自の近況報告では、みな一心に聞き入っていました。その後の懇談ではすっかり昔に戻り、途中いろいろなハプニングを経て、無事に会を終えることができました。

## 元氣！元氣！

一九五四年(昭和二十九年) 卒 三組 小野聖穂

昭和二十九年(一九五四年)三組卒業、通称「三和会」のクラス会を二年ぶりに開催致しました。

会場は、東急東横線自由が丘駅至近の中華料理店で、参加者は女七名、男五名の計十二名で、全員が後期高齢者の順番待ちです。

話題は、学校の思い出話、病氣と薬、孫の自慢、格調高い経済理論と種々入り混じりの喧々諤々状態で、量が多いと文句を言いながら、出てきました。

ました。

開会後も、先生がご持参された当時のアルバムなどを広げて昔を懐かしむことしきりで、時間を忘れるほどでした。

次回も、さらなる参加者を目指して連絡をとりあっています。きたいと思っております。



た料理のお皿もお酒のビンもカラッポ、と、大病直後の参加者もいましたが、まずは参加の皆様お元氣かと???

ということ、一次会二時間半、二次会二時間のお喋り大会、そして幹事には、間を空けず来年もクラス会を開けとの注文付きの盛り上がり会でした。

今回ご欠席の会員様、次回は是非ともご出席を。

## ありがとうございました

大森和子

大森文吉さん(昭和十二年卒 男二組)の奥様から、ご本人逝去(平成二十四年十二月)のご連絡とともに、同窓会宛にお礼のお手紙をいただきました。奥様のご許可をいただきましたので、以下、その一部を掲載させていただきます。

(編集者・斉藤)

(前略)

残された写真を整理していると、青山師範学校附属小学校の友人との交遊が、特に楽しい晩年を彩り、ありがたいことと胸が一杯になっています。

大正十三年生まれの子ども達の附属小学校は青山の地にあり、自宅の代々木上原から徒歩通学をしていたそうです。朝からの大雪の日、現在の渋谷法務局、渋谷税務署の坂をあがった所で、兵隊さんが「坊や、今日はお家(ウチ)にお帰り」と言われたのが、二二六事件



## 季節外れの天の川

一九七八年(昭和五十三年) 卒 一組 岡市典子

小学校の一四〇周年記念を機に、卒業してから三十八年という時を経て、昭和五十三年卒六年一組の「星の子」たちが松山先生のもとに集まりました。

久しぶりの再会には、なんとなく皆気恥ずかしさがあつたようですが、話し始めるとそれぞれに面影が残っており、在学中、松山先生が発行して下さっていた学級通信「はばたけ1組」の続編を手渡して下さると、まるで六年一組の教室に戻ったように大興奮でした。卒業式の朝、先生から頂いた学級通信第四〇号。そして今回発行された四一号。

先生が四〇号を書いていらした年齢を、私達はとうに超えてしまいました。

今でも多くの卒業生に愛される誇るべき学校、尊敬すべき先生、楽しい仲間、安心できる環境、素晴らしい両親。そんな中で私達は成長でき



た幸せに、改めて感謝した一日となりました。

たった数時間の再会でしたが、別れ際には、もう一度卒業式を迎えたような名残惜しさがありました。それぞれの生活に散って行った「星の子」たちが、また再会し「天の川」となる日が楽しみです。

「松山先生。私達はあの頃先生が導いてくださろうとしていたような大人になっていましたか？」

## 新しいスタート

二〇一三年(平成二十五年) 卒 一組 入山紗香

平成二十四年度一組卒業の私たちは、一四〇周年記念祭の中で再び集まることができました。クラスのほとんどは世中に進学しましたが、全員ではありませんでしたし、一組のメンバーで集まる機会もありませんでした。ですので久しぶりに会った人たちは、近況報告に花を咲かせていました。

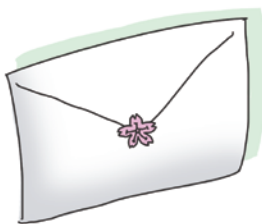
私たちの学年は、今年中学校を卒業し、高校に進学します。ここからは高校もバラバラとなり、新しい道を歩んでいきます。そんな春に、一組のメンバーでお世話になった担任の先生を囲んで話ができただことは大変有意義であったと思います。

十年後、小学校が一五〇周年を迎える時、私たちは成人式も終え、順調に行けば社会人となっています。まだまだ十年先のことは想像ができませんが、今回のような機会を作ってくれた記念祭を企画してくれた方々には心から感謝しています。ぜひ十年後もよろしくお願ひいたします！

クラス会開催の報告記事を募集しています！  
掲載を希望するクラスは、ハガキかメールで、  
同窓会までご一報ください。  
後日、折り返しご連絡いたします。

同窓会メールアドレス

aoyama-dosokai@edit.ne.jp



大森文吉にかわりまして  
大森和子したたむ

の朝だったと話していました。  
(中略)

担任の木村先生、本当にありがとうございました。教生の先生もお世話になりました。担任の木村先生は「もえゆく(萌えゆく)」のクラス名称をくださり、級友からは、晩年になっても仲良く豊かな時間を頂きました。級友と千倉の青山荘に再び旅をした事も、夏の学年合宿にはクジラが外房の千倉の海に打ち上げられたことも思い出のページになっていました。  
(中略) 仲良くして下さった級友の方々、ありがとうございます。  
(下略)



## 第6回「緑友美術展 2017」開催のお知らせ



附属世田谷中学校の同窓会・緑友同窓会が主催する第6回「緑友美術展2017」が、下記の日程で開催されます。附属小学校の同窓生もたくさんの方が参加されるそうです。絵画や彫刻のみならず、今回は「書」の作品も展示されるとのこと。会場は、おしゃれな世田谷美術館。是非、足をお運びください。

(文責: 齊藤)

会 期: 2017年(平成29年) 3月28日(火) ~ 4月2日(日)

会 場: 世田谷美術館区民ギャラリー

お問合せ・連絡先: 「緑友美術展事務局」

〒222-0012 横浜市港北区富士塚1-13-5 塚本隆一

Tel/Fax : 045-401-5756 / E-mail : rich.tkmt@gmail.com



## 平成27年度(平成27年4月1日~平成28年3月31日) 青山附属同窓会 会計報告

### 2. 経常会計(単位: 円)

| 収入             | 金額         | 支出          | 金額         |
|----------------|------------|-------------|------------|
| 前年度より繰り越し      | 13,712,324 | H27藤棚印刷費    | 469,710    |
|                |            | 名簿印刷費       | 0          |
| 会費(既会員入金分) 78名 | 389,000    | キーホルダー      | 621,000    |
| 会費(新卒入会金) 114名 | 1,140,000  | 回線使用料       | 65,579     |
| 140周年 イベント収入   | 1,119,000  | データ管理費      | 268,812    |
|                |            | 事務手数料       | 159,800    |
| 銀行利息           | 1,071      | H27藤棚・名簿発送費 | 632,582    |
|                |            | 通信費・はがき印刷代  | 38,036     |
|                |            | 事務用品費       | 40,514     |
|                |            | 慶弔費・交際費・会議費 | 47,561     |
|                |            | 交通費         | 700        |
|                |            | 振込手数料       | 10,648     |
| 平成27年度収入合計     | 2,649,071  | 140周年記念式費用  | 2,609,396  |
|                |            |             |            |
|                |            | 本年度支出計      | 4,964,338  |
|                |            | 次年度へ繰越      | 11,397,057 |
| 合計             | 16,361,395 | 合計          | 16,361,395 |

### 1. 同窓会基金(単位: 円)

| 収入        | 金額        |
|-----------|-----------|
| 前年度より繰り越し | 3,302,499 |
| 銀行利息      | 788       |
| 合計        | 3,303,287 |

### 3. 資産の部(単位: 円)

| 明細        | 金額         |
|-----------|------------|
| 同窓会基金分    |            |
| 三菱UFJ信託銀行 | 3,303,071  |
| 合計        | 3,303,071  |
| 経常会計分     |            |
| 三井住友銀行    | 5,005,995  |
| ゆうちょ銀行    | 6,038,990  |
| 現金        | 352,072    |
| 合計        | 11,397,057 |
| 基金+経常会計合計 | 14,700,128 |

会計監査承認 会計監事 吉原重和

同窓会ホームページのアドレスを  
ご確認ください!

<http://aoyama-dosokai.jp>

(旧 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~doso/>)  
ブックマーク・お気に入り登録の変更を  
お願いいたします。

### ◆本年度の同窓会役員

会 長 庭山正一郎(昭和三十三年)  
幹 事 長 森 昭彦(〃三〇年)  
会計監事 吉原重和(〃三五年)  
松本洋典(平成八年)  
常任幹事 小野聖穂(昭和二十九年)  
幣原 廣(〃三七年)  
一力健一郎(〃五〇年)  
岡市典子(〃五三年)  
齊藤研一(〃五四年)  
野口尚志(〃六三年)  
瓶子可南子(平成八年)  
日野真毅(〃二五年)